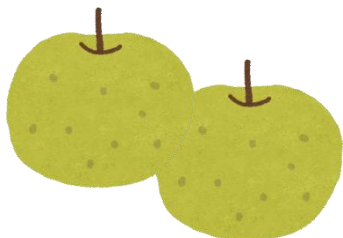




2021年7月28日

報道各社 御中

伊賀ふるさと農業協同組合（JAいがふるさと）
全国農業協同組合連合会三重県本部（JA全農みえ）



果汁たっぷり、甘みが強い！ 伊賀ブランド「白鳳梨」が本格出荷

JAいがふるさと管内の伊賀市羽根地区で生産する特産「白鳳梨（はくほうなし）」の出荷が、同地区の農事組合法人白鳳梨生産組合で本格化します。

今年産は、開花が早く、4月の霜害や5月からの早梅雨の影響が心配されましたが、大きな病害もなく順調に生育しています。梅雨が明け、好天が続くと見込まれることから、例年どおり食味のよい果実に仕上がるのが期待されています。

出荷最盛期を迎える白鳳梨の集出荷のようすを、ぜひご取材いただきたく、下記のとおりご案内申し上げます。

記

- と き：2021年8月2日（月）13時30分～15時ごろ（選果・出荷作業）
※主力品種「幸水」の今シーズンの初選果（初出荷）は8月1日ですが、
十分な出荷量を見込める上記日程にご取材をいただけますと幸いです。
※当日の出荷量や作業の進行状況により、上記時刻は若干前後にずれる場合があります。あらかじめご了承くださいませようお願いいたします。
- 場 所：農事組合法人白鳳梨生産組合（選果場）
伊賀市羽根405-1 TEL0595-21-5862
- 内 容：各園地で収穫した梨を、選果、箱詰めし、市場へ出荷します。

以上

【ご取材時のお願い】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご取材時は、マスク着用や一定の距離の確保、
「3密」回避などのご協力をお願いいたします。

【ご参考】

白鳳梨(はくほうなし)

「白鳳梨」は、1948年(昭和23年)から伊賀市羽根地区で栽培が始まり、現在、生産農家20戸が約13.1畝で栽培しています。白鳳梨の名は、このナシが栽培されている伊賀市の上野城の別名「白鳳城」に由来しています。

盆地ならではの寒暖差の大きい気候を生かしつつ、有機肥料を中心とした土づくりや、果実に袋かけをしない栽培方法(無袋栽培/むたいさいばい)で日光をたっぷりと浴びるようにして育て、果汁が豊富で甘みが強いのが特徴です。

今年産の出荷は、8月下旬までが「幸水(こうすい)」、以降は「豊水(ほうすい)」が9月中旬ごろまで続く見通しです。県内(市場、直売)や関西地区(市場)への出荷で計約300トンを見込んでいます。

同地区の農事組合法人白鳳梨生産組合(樋口良紀組合長)は、2003年(平成15年)からすべての農家が環境保全型農業に取り組み、若手生産者も熱心に栽培しており、活気のある生産活動を行っています。

人と自然にやさしい生産方式でつくられた農畜産物などを県が認定する「みえの安心食材」を取得しており、さらに、生産組合としてJGAP取得に向けて取り組み、より安全・安心なナシの出荷に努めています。

2015年(平成27年)には、伊賀を代表する優れた商品を伊賀市などが認定する「伊賀ブランドIGAMONO」にも選ばれ、さらなる全国へのPRと販路の拡大をめざしています。また、2017年(平成29年)からシンガポール向け輸出にも取り組んでいます。



選果・箱詰め作業の様子